

公衆衛生學研究科

公衆衛生學專攻

專門職學位課程

博士後期課程

目 次

IV－I．専門職学位課程（MPH）

（１）教育目的、ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー	1
（２）コンピテンシー基盤型教育、問題解決型アプローチ	4
（３）養成人材別の達成すべき能力	7
（４）行事予定	8
（５）授業科目一覧、授業時間割、授業科目の概要	9
（６）カリキュラムマップ	16
（７）教員一覧	18
（８）履修の手引き	
1．履修の申込みと変更の届け出等	21
2．授業科目の履修	22
3．成績評価および GPA 制度	24
4．海外提携大学との交流及び留学支援	25
5．履修届・履修科目変更届（見本）	26
（９）アカデミックアドバイザー（AA）	28
（10）研究科委員会賞	28
（11）その他留意事項	28
（12）授業年間時間割	30

IV－II．博士後期課程（DrPH）

（１）教育目的、ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー	32
（２）コンピテンシー基盤型教育、問題解決型アプローチ	35
（３）行事予定	38
（４）授業科目一覧、授業時間割、授業科目の概要	39
（５）カリキュラムマップ	44
（６）教員一覧	46
（７）履修の手引き	
1．履修の申込みと変更の届け出、学位申請等	49
2．授業科目の履修	50
3．成績評価および GPA 制度	52
4．海外提携大学との交流及び留学支援	53
5．履修届・履修科目変更届（見本）	54
（８）学位授与	56
（９）その他留意事項	58
（10）授業年間時間割	60

（１）教育目的、ディプロマポリシー・ポリシー、カリキュラム・ポリシー

＊教育目的

公衆衛生学研究科は、建学の精神に則り、人々の命を守り健康を増進させるとともに、健全な保健医療体制の持続的な発展と医療の質の継続的な向上、健康を維持する社会づくりに寄与する。そのために、様々な公衆衛生上の課題に対して指導的立場で科学的判断に基づく問題解決ができる高度専門職業人を養成する。また保健医療活動に代表される、人々の生命を守る活動を統括指導できる高度な実践能力とリーダーシップを併せ持つ公衆衛生の上級管理者・上級指導者の養成を目的とする。このような公衆衛生の人材育成を通じた社会貢献を行うことが研究科の教育目的である。

公衆衛生学専攻（博士後期課程）は、公衆衛生学研究科の目的に則り、変動発展する社会と科学技術に対応した新たな問題に対して科学的な分析を行い、その結果と解決策を科学的根拠に基づいて提示・実践し、評価できる能力の獲得を必須のものとする。加えて、そのような成果を達成するために求められるリーダーシップ、マネジメント能力、コミュニケーション能力等を併せ持つ上級管理職・上級指導者の養成を目指している。

＊ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）

公衆衛生学研究科博士後期課程は、公衆衛生学研究科の目的に則り、変動発展する社会と科学技術に対応した新たな問題に対して科学的な分析を行い、その結果と解決策を科学的根拠に基づいて提示・実践し、評価できる能力の獲得を必須のものとする。加えて、そのような成果を達成するために求められるリーダーシップ、マネジメント能力、コミュニケーション能力等を併せ持つ上級管理職・上級指導者の養成を目指している。従って、本公衆衛生学研究科 公衆衛生学専攻の博士後期課程においては、そのような上級管理職・上級指導者という観点から以下のような能力を身につけ、かつ所定の単位を修め、学位論文審査および試験に合格した者に対して学位を授与する。

1. 公衆衛生の実際の場合における問題解決のために公衆衛生の 5 つのコア領域（疫学、生物統計学、社会行動科学、保健政策・医療管理学、産業環境保健学）の総合的能力を持ち、分野横断的な組織や活動を率いる能力がある。
2. 変動発展する社会と科学技術に対応した新たな問題に対して科学的な分析を行い、その解決策を科学的根拠に基づいて提示・実践し、評価することのできる能力がある。
3. 公衆衛生の実践において指導的立場の専門家に求められるリーダーシップ、マネジメント能力、コミュニケーション能力等のコンピテンシー（別記）を有している。
4. 人々の命を守り健康を増進させるために、そして健全な保健医療体制の持続的な発展と医療の質の継続的な向上に寄与するために、様々な公衆衛生上の課題に対して指導的立場で科学的判断に基づく問題解決を行い、その活動を統括指導する能力を有している。
5. 身体的・心理的・社会的に弱い状況におかれた人々の立場を理解したうえで、指導的立場から公衆衛生活動を実践する能力を有している。
6. グローバルな視点をもって指導的立場から公衆衛生活動を実践する能力を有している。
7. 上記 1 から 6 を通じて、社会や組織、保健医療課題の変化に貢献しうる総合的な能力と資質を培っている。

＊カリキュラム・ポリシー（教育課程編成の方針）

学位授与に要求される知識・能力を修得するために、公衆衛生学研究科は、以下の方針でカリキュラムを編成する。

1. 公衆衛生の現場における問題解決のために、公衆衛生の 5 つのコア領域を総合的に理解し、かつ分野横断的な組織や活動を率いる人材を養成するために、共通科目として国際標準として公衆衛生高等教育に求められる 5 つの領域の科目を設け、さらに 3 つの専門分野（「疫学・生物統計学分野」、「産業環境保健学分野」、「保健政策・医療管理学分野」）の授業科目を設ける。
2. 変動発展する社会と科学技術に対応した新たな問題を発見し、それに対して科学的な分析を行い、その解決策を科学的根拠に基づいて提示・実践し、評価できる人材を目指し、各専門分野の研究指導教員による「特殊研究」科目を設ける。「特殊研究」は個別の課題に実際の現場で取り組むことを通じて、公衆衛生の総合力、問題解決能力、コンピテンシーの向上を図る。
3. 公衆衛生の実践と教育・研究を行う実施チームのリーダーとして適切かつ迅速に対応できるリーダーシップを核とする能力を身につけるため、養成する人材像にかかわらず、3 分野共通の必修科目（「リーダーシップ・マネジメント特論」）を設ける。
4. 国際通用性の観点から、海外の最新事情や最先端の知識に触れグローバルな視点を身につけるため、公衆衛生学の 5 つのコア領域について海外提携校の教授陣による授業科目を設ける。加えて、主にアジア諸国の提携校の学生も参加して実施される英語による講義科目（「Seminar on Healthcare Management」、「Seminar on Universal Health Coverage & Aging Society」）も設けている。

公衆衛生学研究科について

帝京大学大学院公衆衛生学研究科（帝京 SPH）は、2011 年 4 月に専門職学位課程として開設されました。Master of Public Health (MPH)に加えて、2014 年 4 月には Doctor of Public Health (DrPH)を取得できる博士後期課程も開講しました。本学の建学の精神と教育指針にある実学、国際性、開放性に則り、公衆衛生の専門職の育成を目的にしています。

帝京 SPH の特長は、ハーバード大学等との連携のもと、国際基準で必須とされる 5 分野（疫学、生物統計学、産業環境保健学、保健政策管理学、社会行動科学）を基本としたカリキュラム、21 世紀の保健医療専門職の教育として必要とされるコンピテンシー基盤型教育を通じた問題解決のできる人材、すなわち、世の中や社会あるいは組織を変えることのできる“Change Agents”の育成です。

日本や世界の公衆衛生と保健医療福祉は常に大きな問題を抱えています。時代により問題は変化し、解決方法も一様ではありません。現在、そして将来の課題と社会のニーズに対応できる Change Agents を育てるため、以下のミッション、ビジョン、バリュー、そして、ゴールをもとに、教育、研究、そして公衆衛生の実践を続けます。

ミッション

社会における公衆衛生課題の解決を目指すリーダー（Change agent）を養成する教育と、実践に結びつく科学的研究を通じて、健康でより良い社会をつくり、いのちとくらしを衛ります。

ビジョン

- ・ 公衆衛生専門職教育のフロントランナーとして、科学と実践を結ぶ問題解決能力と研究能力を養い、より健康な社会づくりを目指すリーダーを育成する場であり続けます。
- ・ 公衆衛生の専門職教育と連携し、公衆衛生課題の解決に結びつく研究に基づいてより健康で良い社会に変えます。

バリュー

自発的に、実践的に、多様に、革新的に、科学的に、国際的に、公衆衛生活動を共に。

ゴール

- ・ 公衆衛生課題の解決に資する実践的・科学的研究を国内外で実施し、その成果をもとにより健康な社会の実現に努めます。
- ・ 日本とアジアの公衆衛生大学院における専門職教育改革を推進するため、高い資質と能力を備えた専門家を世に送る専門職大学院の実践的な教育方法の開発と実施に努めます。
- ・ 日本国内外でおこる公衆衛生の現在あるいは将来の課題に取り組むよう、地域や産業界などとも連携し、地域社会（コミュニティ）での公衆衛生に貢献する活動を行います。

公衆衛生学研究科長 福田吉治

(2) コンピテンシー基盤型教育、問題解決型アプローチ

コンピテンシー基盤型教育

公衆衛生活動を統括指導できる公衆衛生の高度な実践能力とリーダーシップを併せ持つ上級管理者・上級指導者としての人材の養成を目的とする大学院公衆衛生学専攻（博士後期課程）は、そのような上級管理職・上級指導者にふさわしい能力・資質を明示することが、学習を行う上でもその教育を行う上でも有用と考えられる。いま欧米で広がっているアウトカム基盤型教育と修得すべきコンピテンシー設定は世界的流れになっている。大学院公衆衛生学専攻（博士後期課程）に求められるコンピテンシーについて、米国公衆衛生大学院協会（ASPPH）は 2009 年に 7 つの項目を提示している。本研究科ではこれらの背景も含め検討した結果、以下の 8 項目の資質・能力を博士後期課程（DrPH）コアコンピテンシーとして定めた。

I. 職業意識と倫理

倫理的問題を同定し分析する能力

個人の自由の追求と集団の健康をまもり増進するという専門職としての責任のバランスを取り、公衆衛生の研究や実践において、社会正義や人権の概念に基づいて行動する能力

1. 肉体的・精神的・社会的に弱い状況におかれた者の立場を十分に理解し、公衆衛生上の倫理規範に基づいて公衆衛生の実践を指導することができる。
2. 公衆衛生実践者、研究者、機関が遭遇する可能性のある利益相反について適切に対処することができる。
3. 公衆衛生活動、研究、法律、政策、における倫理的懸念を解決するための戦略を策定できる。
4. 保健事業、政策、研究に関わる個人や共同体のプライバシーを保護するための方法を実施できる。

II. 批判的分析

論理的かつエビデンスに基づいて公衆衛生活動を行う能力

1. 医学公衆衛生学領域の学術的成果・広範な領域からの考え方・健康関連データを統合し適用することによって、公衆衛生の向上のためのプログラム・施策・しくみを発展させることができる。
2. 地域と住民の公衆衛生上のニーズと資源の評価、健康サーベイランスシステムの開発、健康増進プログラム・施策の評価など一連のプロセスを主導することができる。
3. 問題を定式化し、データを定量的かつ定性的に解釈し、リスク・ベネフィットを見積もり、多様な情報を統合して実践することができる。
4. 実践の過程や結果として得られた新規性・普遍性・発展性のある情報を広く利用できる形で発信し、その普及を図ることができる。

III. 地域・文化交流

公衆衛生活動において、多様な地域に属する人々や異なる文化背景にある人々と交流し、相互活性化する能力

1. 地域、職域、その他のグループや行政組織と交流し共に活動できる。
2. 地域の健康面における文化、環境及び社会的公正性の現状を評価し、改善策を探究できる。
3. 地域等での人々の活動を参加者の主体性の観点から評価し、主導できる。

IV. コミュニケーション

個人・集団・地域・政策に情報を提供し公衆衛生活動の方向性を示す目的で、人々に対してどのようにコミュニケーション戦略を立てれば良いのかを提案・評価し活用する能力

1. ヘルスリテラシーが異なる様々な集団に働きかけるため、理論と戦略に基づいたコミュニケーションのゴール、目的、優先度を設定できる。
2. 個人どうし、ならびに集団と社会を対象にしたヘルスコミュニケーションとソーシャルマーケティングについて説明し、活用することができる。
3. 専門家や政策策定者などに対して、コミュニケーションプログラムの提案を行い、その評価方法について説明できる。
4. 内外の協力者を含めた必要な人的ネットワークを構築できる。

V. 運営管理

現状の法令や社会制度と調整しつつ、構成員の積極的参加をはかり、目標達成に向けて保健医療組織を運営できる能力

1. 戦略的に決められたプロセスに沿って保健計画及びその実施のための財政・事業計画を策定できる。
2. 保健計画の策定・実施のための方策・手順と法令上の制約との調整を行える。
3. 責任、権限、コミュニケーション及びガバナンス（統率）が明確化かつ体系化された組織を構築するとともに適正な人事管理を行える。
4. 組織の活動目標の達成度を適正に評価できる。

VI. リーダーシップ

公衆衛生活動を強化するために共有できる展望(価値)を創造して伝え、他者からの信頼感を高めてやる気を出させ、根拠に基づく戦略を用いる能力

1. 共有できる展望を創造できる。
2. 新たな保健活動の取り組みを実施するための効果的なチームを構築して率いることができる。
3. 内外の状況調査に基づいて組織の意思決定と企画立案を指導できる。
4. 個人、組織、地域社会ごとの能力向上戦略を開発できる。

VII. アドボカシー

公衆衛生を増進する政策やその実践のための意思決定に影響を与える能力

1. 健康問題に関して法律や政策の役割を説明して利用できる。
2. 科学的根拠・利害関係者からの視点・世論データに基づき健康政策やプログラムの意思決定に影響を与えることができる。
3. 合意形成・交渉・対立回避などの決議技術を利用できる。
4. 健康政策や法律を変更するために根拠に基づく戦略を立案できる。

VIII. 国際通用性

国際水準の活動、国際的な場でのコミュニケーションができ、国際機関・NGO 等で専門家としての役割を果たす能力

1. 公衆衛生にかかわる最新の国際的専門知識や現場の実務的情報を把握し、活用できる。
2. 公衆衛生活動の内容・成果を海外向けに口頭や文書で情報発信できる。
3. 関連国の保健医療政策・制度の知識を有し、国際機関・NGO 等において公衆衛生の専門家としての役割を果たすことができる。

問題解決型アプローチ

博士後期課程ではその最終成果として、「学位論文」の提出を求める。5つのコア領域の知識と技能を体系的に活かして、現在の公衆衛生上の実践課題の分析に取り組み、その解決策を科学的根拠に基づいて提示・実践し、評価する。そのうえで、主体的にフィールドでの実際の活動、介入やその事後評価といった社会を動かす上級管理職たる素養を示す成果物（学位論文）とする。

こうした上級管理職・上級指導者としての公衆衛生活動を指導的立場から実践する能力をより具体化し、8つのコンピテンシーとして明示化し、教育課程においてその各項の習得を目指す。

問題解決型アプローチは、帝京大学公衆衛生学研究科で目指す問題解決能力を備えた実務を担う高度専門職養成に必要な素養である。特殊研究セミナーや授業を通じてこのアプローチで問題を考える力を育むことを目指している。問題解決型アプローチは公衆衛生上の問題を発見し、その問題の具体的な原因と結果を考えることから始まる。そして原因と結果の定式化をもとに定量的に問題を解析して問題の程度を把握する。同時に、既存の文献等の情報から当該公衆衛生課題に対する既存の知見を分析する。その中で、自らが取り組む公衆衛生の問題がいかにして検証されているか否かを把握しておく。さらに問題を取りまく社会的要因や利害関係者（ステークホルダー）を列挙して、問題解決に際して配慮すべき関係者の整理を行う。このような分析を中心としたプロセスの後、問題解決の実践のために解決策の計画を立案する。複数立案された施策についてはその優先順位をつけて実行する。その後、行った施策の評価を行い、次のプロセスにつなげる。こうした一連の実践的プロセスが問題解決型アプローチで、5つのステップ（1）課題形成、（2）問題の分析、（3）解決策立案、（4）解決策実施、（5）評価 に整理している。

(3) 行事予定

内容	対象学年	日程
健康診断	全学年	3月28日(木)～30日(土) 4月 3日(水) 4月 5日(金)
オリエンテーション (学生証の発行、科目履修の手続き、アウトカム 基盤型教育とコアコンピテンシーの概要、等)	1年生	4月 3日(水)
入学式(日本武道館)	1年生	4月 4日(木) 午前
前期授業の期間 (a 学期、b 学期)	全学年	4月 5日(金)～8月15日(木)
履修届けの提出期限	全学年	4月19日(金)(※1)
学位論文に関するガイダンス	1年生	5月 9日(木)
学位申請に関するガイダンス (申請手続き)	3年生	5月 9日(木)
学位論文 内部審査会(計画審査) 内部審査会(中間審査・学内最終審査)	全学年	5月上旬から順次
学位論文 学位申請の受付	3年生 (※2)	5月13日(月)～11月14日(木)
創立記念日(休校日)	全学年	6月29日(木)
夏季休業期間	全学年	8月16日(金)～9月16日(月)
後期授業の期間 (c 学期、d 学期)	全学年	9月17日(火)～12月25日(水)
学位論文審査会	3年生 (※2)	12月中旬～2月7日(木)
学位授与式(日本武道館) (帝京大学グループ卒業式)	学位授与者	3月中旬

(※1) 履修変更届けは、各学期内で実施される授業科目ごとに以下ようになる。

◇ 前期前半(a 学期)：履修届け提出により確定 / 締切日 4月19日(金)

◇ 前期後半(b 学期)：締切日 6月21日(金)

◇ 後期前半(c 学期)：締切日 9月27日(金)

◇ 後期後半(d 学期)：締切日 11月22日(金)

注) w 学期に実施される冬期集中講義(海外客員教授による特論)に関しては、履修届け提出前に研究指導教員と十分に相談した上で決定する。変更可能時期は講義開始の1ヶ月前までである。

(※2) 早期修了を希望する者(1年生もしくは2年生)は、研究指導教員にその旨を相談するとともに、学位論文審査の受付時期等について事務部教務課(大学院担当)へ詳細を問合わせる。

(4) 授業科目一覧 (博士後期課程)

2019年度 公衆衛生学研究科 博士後期課程 授業科目一覧

科目 区分	分野	授業科目の名称	単位数			授業 形態	授業時間割				科目責任者	備考
			必修	選必	選択		配当 年次	学期	曜日	時限		
共通 科目		01 リーダーシップ・マネジメント特論	1			講義	1	c,d	水	1,2	石川ひろの 教授	
		02 基礎疫学特論		2		講義 演習	1	a,b	木	3,4	大脇 和浩 教授	
		03 基礎生物統計学特論		2		講義 演習	1	a,b	水	1,2	山岡 和枝 教授	
		04 健康行動科学特論		2		講義	1	a,b	水	3	石川ひろの 教授	
		05 保健政策・医療管理学特論		1		講義	1	a	火	3	中田 善規 教授	
		06 産業環境保健学特論		1		講義	1	a	火	1	福田 吉治 教授	
		07 公衆衛生倫理学特論		1		講義	1	a	水	4	石川ひろの 教授	
		08 医学基礎・臨床医学特論		2		講義	1	a,b	月	1,2	山本 秀樹 教授	
専門 科目	疫学・ 生物統計学 分野	09 臨床疫学特論		1		講義 演習	1	c,d	木	3,4	大脇 和浩 教授	
		10 リスク科学特論			1	講義	1	d	月	1,2	津田 洋子 講師	
		11 応用生物統計学特論		1		講義	1	c,d	火	1	山岡 和枝 教授	
		12 統計モデル特論			1	講義 演習	1	a	火	4	松浦 正明 教授	
		13 データ解析特別演習			1	演習	1	c,d	火	2	松浦 正明 教授	
		14 臨床試験特論			1	講義	1	c,d	火	3	根本明日香 講師	
		15 カテゴリカルデータ解析特論			1	講義	1・2	d	月	4	山岡 和枝 教授	
		16 社会調査データ解析特論			1	講義	1・2	a	火	5	山岡 和枝 教授	
		17 社会調査データ解析特別演習			1	演習	1・2	a	火	6	山岡 和枝 教授	
		18 特別講義(疫学の展開Ⅰ～Ⅲ)			1	講義	1	w	冬期		Murray Mittleman 客員教授	集中講義
		19 特別講義(生物統計学の展開Ⅰ～Ⅲ)			1	講義	1	w	冬期		Garrett Fitzmaurice 客員教授	集中講義
		20 特別講義(社会行動科学の展開Ⅰ～Ⅲ)			1	講義	1	w	冬期		Ichiro Kawachi 客員教授	集中講義
		21 疫学・生物統計学特殊研究		12		演習	1～3	通年	個別設定		山岡 和枝 教授	
	産業 環境 保健学 分野	22 産業保健学特論		1		講義 演習	1	c	月	1,2	福田 吉治 教授	
		23 産業環境工学特論		1		講義	1	s	夏期		津田 洋子 講師	集中講義
		24 産業中毒学特論			1	講義	1	d	水	3,4	津田 洋子 講師	
		25 環境保健学特論Ⅰ			1	講義 演習	1	c	水	1,2	津田 洋子 講師	
		26 環境保健学特論Ⅱ			1	講義	1	d	水	1,2	津田 洋子 講師	
		27 特別講義(産業環境保健学の展開Ⅰ～Ⅲ)			1	講義	1	w	冬期		Rose Goldman 客員教授	集中講義
		28 産業環境保健学特殊研究		12		演習	1～3	通年	個別設定		福田 吉治 教授	
	保健 政策・ 医療 管理 学 分野	29 保健政策学特論		1		講義	1	b	火	3,4	福田 吉治 教授	
		30 医療経済・経営学特論		1		講義 演習	1	b,c	月	3,4	中田 善規 教授	
		31 医療経済分析特論			1	講義	1	d	水	3,4	中田 善規 教授	
		32 地域保健学特論			1	講義 演習	1	b	火	1,2	高橋 謙造 教授	
		33 国際保健政策学特論			1	講義	1	b	火	6	高橋 謙造 教授	
		34 Seminar on Healthcare Management			1	講義	1・2	s	夏期		中田 義規 教授	集中講義
		35 Seminar on Universal Health Coverage & Aging Society			1	講義 演習	1・2	s	夏期		井上まり子 准教授	集中講義
		36 特別講義(保健政策・医療管理学の展開Ⅰ～Ⅲ)			1	講義	1	w	夏期		Alastair Gray 客員教授	集中講義
		37 保健政策・医療管理学特殊研究		12		演習	1～3	通年	個別設定		中田 善規 教授	

(4) 授業時間割 (博士後期課程)

2019年度 公衆衛生学研究科 博士後期課程 時間割

			前期		後期		
曜日	時限		前半8週(a学期)	後半8週(b学期)	前半8週(c学期)	後半8週(d学期)	
			4/5(金)～6/12(水)	6/13(木)～8/15(木)	9/17(火)～11/7(木)	11/11(月)～12/25(水)	
月	1	9:00 10:30	医学基礎・臨床医学特論		産業保健学特論	リスク科学特論	
	2	10:45 12:15					
	3	13:05 14:35	医療経済・経営学特論	カテゴリカルデータ解析特論			
	4	14:50 16:20					
	5	16:35 18:05					
	6	18:20 19:35					
火	1	9:00 10:30	産業環境保健学特論		地域保健学特論	応用生物統計学特論	
	2	10:45 12:15				データ解析特別演習	
	3	13:05 14:35	保健政策・医療管理学特論		保健政策学特論	臨床試験特論	
	4	14:50 16:20	統計モデル特論				
	5	16:35 18:05	社会調査データ解析特論				
	6	18:20 19:35	社会調査データ解析特別演習			国際保健政策学特論	
水	1	9:00 10:30	基礎生物統計学特論		環境保健学特論Ⅰ(※1) リーダーシップ・マネジメント特論(※1)	環境保健学特論Ⅱ(※2) リーダーシップ・マネジメント特論(※2)	
	2	10:45 12:15					
	3	13:05 14:35	健康行動科学特論			産業中毒学特論(※3) 医療経済分析学特論(※3)	
	4	14:50 16:20	公衆衛生倫理学特論				
	5	16:35 18:05					
	6	18:20 19:35					
木	1	9:00 10:30					
	2	10:45 12:15					
	3	13:05 14:35	基礎疫学特論		臨床疫学特論		
	4	14:50 16:20					
	5	16:35 18:05					
	6	18:20 19:35					
金	1	9:00 10:30	特殊研究		特殊研究		
	2	10:45 12:15					
	3	13:05 14:35					
	4	14:50 16:20					
	5	16:35 18:05					
	6	18:20 19:35					

(※) 隔週開講

夏期(s学期)		
集中講義	7～9月 (予定)	Seminar on Healthcare Management
		Seminar on Universal Health Coverage & Aging Society
		産業環境工学特論
冬期(w学期)		
集中講義	1月 (予定)	特別講義(疫学の展開Ⅰ～Ⅲ)
		特別講義(生物統計学の展開Ⅰ～Ⅲ)
		特別講義(社会行動科学の展開Ⅰ～Ⅲ)
		特別講義(産業環境保健学の展開Ⅰ～Ⅲ)
		特別講義(保健政策・医療管理学の展開Ⅰ～Ⅲ)

※特別講義は年度により内容が異なることがあり、
Ⅰ～Ⅲのいずれかを開講する。

（４）授業科目の概要

①共通科目

公衆衛生の５つのコア領域を統合し、実践と教育・研究を行う実施組織のリーダーとして適切かつ迅速に対応することのできる管理職・指導者としての能力等を修得するため、研究者・科学者としての思考、リーダーシップ、コミュニケーション能力等に優れていることが重要である。

そこで、選択する専門分野にかかわらず、共通科目として、「リーダーシップ・マネジメント特論」の必修科目を設ける。

また、公衆衛生学専門職学位（MPH）保有者以外の入学生に対しての配慮から、すなわち専門職学位課程との接続性の観点から「基礎疫学特論」、「基礎生物統計学特論」、「健康行動科学特論」、「保健政策・医療管理学特論」、「産業環境保健学特論」、「公衆衛生倫理学特論」の選択必修科目を設けている。さらに、医療系修士課程修了者以外の入学者に対しての配慮から「医学基礎・臨床医学特論」の選択必修科目を設けている。

②専門科目（疫学・生物統計学分野）

生物統計学分野の幅広い専門性から、生物統計学のテクニカルサイエンスのもとに公衆衛生学分野の知識・技能を有し、研究者・科学者としての思考、リーダーシップに優れていること、交渉能力といったコミュニケーション能力が高いことが重要であり、そのため講義および演習ではインタラクティブな教員・学生との連携に重点を置く。

必要な場合には個別教員による適切な指導も行い、この際、研究能力の育成および優れた指導力を備えた大学教員の育成という視点にも配慮した教育を行う。

また、研究論文の指導にあたっては、そのために必要となる知識・技能の習得を広く深く行えるよう、学生のそれまでの過程、能力に応じて、コアコンピテンシーや研究者として必要とされる調査研究方法や論文作成をはじめとする研究手法について、補完的な指導を適切に実施するよう配慮して指導する。

そこで本博士後期課程では、研究指導目的の「疫学・生物統計学特殊研究」に加えて、「臨床疫学特論」、「応用生物統計学特論」といった３科目を、本分野を選択した学生への選択必修科目（分野指定科目）としている。また、その他の専門特化した科目は選択科目として設定し研究テーマに沿った学習の機会を与える。具体的には、「リスク科学特論」、「統計モデル特論」、「データ解析特別演習」、「臨床試験デザイン特論」、「カテゴリカルデータ解析特論」、「社会調査データ解析特論」、「社会調査データ解析特別演習」の７科目を設定している。

また、国際的な視野での教育機会を与えるため海外提携校（米国ハーバード大学、英国オックスフォード大学、英国ケンブリッジ大学、英国ダラム大学）に在籍する世界的権威である客員教授による「特別講義（疫学の展開Ⅰ～Ⅲ）」と「特別講義（生物統計学の展開Ⅰ～Ⅲ）」と「特別講義（社会行動科学の展開Ⅰ～Ⅲ）」の３科目（選択科目）も設けている。

③専門科目（産業環境保健学分野）

博士後期課程の教育内容として、環境産業保健学分野の実践性からケーススタディを重視し、実例とその対処を考える中で公衆衛生学分野の知識・技能を有し、研究者・科学者としての思考、リーダー

シップに優れていること、交渉にあたっての高いコミュニケーション能力があることが重要であり、講義および演習ではインタラクティブな教員・学生との連携に重点を置く。

必要な場合には個別教員による適切な指導も行い、この際、研究能力の育成および優れた指導力を備えた大学教員の育成という視点にも配慮した教育を行う。

また、学位論文の指導にあたっては、そのために必要となる知識・技能の習得を広く深く行えるよう、学生のそれまでの過程、能力に応じて、コアコンピテンシーや研究者として必要とされる調査研究方法や論文作成をはじめとする研究手法について、補完的な指導を適切に実施するよう配慮して指導する。

産業保健・環境保健が取り扱うべき健康影響要因は様々である。ヒトへの有害な健康影響が分かっている要因に対してはリスクを評価する判定指標が示されているが、そもそもヒトへの影響がはっきりしない要因も多い。そのような未解明の要因も多い産業保健・環境保健分野では、現在までに培われてきた産業保健学・環境保健学の知識の習得だけではなく、習得した知識を組み替えて新たな課題に対応する能力（研究能力）が必要である。そのような能力の習得には、これまでの論文・書籍の理解とともに、産業現場（工場でありオフィス）・自然環境というフィールドでの新たな課題に対する研究を通じた能力向上が必要である。

そこで本博士後期課程では、研究指導目的の「産業環境保健学特殊研究」に加えて、「産業保健学特論」、「産業環境工学特論」といった3科目を、本分野を選択した学生への選択必修科目（分野指定科目）としている。また、その他の専門特化した科目は選択科目として設定し研究テーマに沿った学習の機会を与える。具体的には、「産業中毒学特論」、「環境保健学特論Ⅰ」、「環境保健学特論Ⅱ」の3科目を設定している。

また、国際的な視野での教育機会を与えるため海外提携校（米国ハーバード大学、英国オックスフォード大学、英国ケンブリッジ大学、英国ダラム大学）に在籍する世界的権威である客員教授による「特別講義（産業環境保健学の展開Ⅰ～Ⅲ）」の1科目（選択科目）も設けている。

④専門科目（保健政策・医療管理学分野）

我が国では人口構造や経済環境が変化する中で、増加する一途の医療費の問題、社会保障制度など保健医療制度の見直しは喫緊の課題である。さらに、新興再興感染症や災害への取組などの危機管理の点からも保健医療政策が果たすべき役割は大きい。国際的にみても、現在は人口の高齢化や疫学転換と呼ばれる疾病構造の変化が起こっており、高齢社会や非感染性疾患の対策を国際機関も主導している。社会問題の中でも特に人々の生活や生命に直結する保健医療政策での取り組みは、人々への説明責任が問われる。その際に事実をデータで実証し、論理的に政策を検証して社会の変革に資する学術界の貢献に対する期待は高い。

医療管理学では、医療経済学、医療経営学の知識と共に、医療の質を向上させながらも経営の効率化、臨床データの有効活用、医療安全の確保等が求められている。これを実現するためには各種医療と経営情報を分析する能力と多業種に説明する力が求められる。そのため、保健医療政策と医療管理学の基本理論や基礎知識を活かし、実際に日本国内や世界での医療システムと保健医療制度、もしくは病院管理上の問題を探し出して研究を行うことを念頭に置いている。その際、病院や住民の行動といった個人レベルのデータ分析とともに、地域や国単位でのデータ分析方法も指導する。さらに政策分析手法や経営学などの量的データ分析以外の研究手法の教育にも配慮する。研究は論文として公表し、実際の保健医療政策や医療管理に影響を与えうる水準の科学的根拠を目指すよう指導する。

そこで、本博士後期課程では、研究指導目的の「保健政策・医療管理学特殊研究」に加えて、「保健政策学特論」、「医療経済・経営学特論」といった3科目を、本分野を選択した学生への選択必修科目（分野指定科目）としている。また、その他の専門特化した科目は選択科目として設定し研究テーマに沿った学習の機会を与える。具体的には、「医療経済分析特論」、「地域保健学特論」、「国際保健政策学特論」、「Seminar on Healthcare Management」、「Seminar on Universal Health Coverage & Aging Society」の5科目を設定している。

また、国際的な視野での教育機会を与えるため海外提携校（米国ハーバード大学、英国オックスフォード大学、英国ケンブリッジ大学、英国ダラム大学）に在籍する世界的権威である客員教授による「特別講義（保健政策・医療管理学の展開Ⅰ～Ⅲ）」（選択科目）の1科目も設けている。

⑤特殊研究

特殊研究は専門科目として設けられており、その目的は「現実の保健医療問題の改善・解決や人々の健康水準の向上を図るという公衆衛生課題に対する具体的な成果を達成し、またそれを達成するための能力（コンピテンシー）、ならびに学位論文の作成能力を身に付ける」ことにある。すなわち、本科目では学位の申請に先立って申請者がそのための能力水準を満たしているかの評価を実施することを主眼としている。具体的には、科目責任者（＝研究指導教員）によりコンピテンシー基盤型教育と問題解決型アプローチの考え方に沿って在学期間中（1年次～3年次）継続的な指導が行われると共に、本研究科内に設置される内部審査会による計画審査と中間審査により学位申請前の評価が行われる。

そこで、本博士後期課程では、「疫学・生物統計学特殊研究」「産業環境保健学特殊研究」「保健政策・医療管理学特殊研究」の3つの科目を設けており、学生はいずれか1つの分野の特殊研究を選択（分野指定科目）する必要がある。

(5) カリキュラムマップ(学位授与方針と開講科目との対応関係)

(公衆衛生学研究科 博士後期課程)

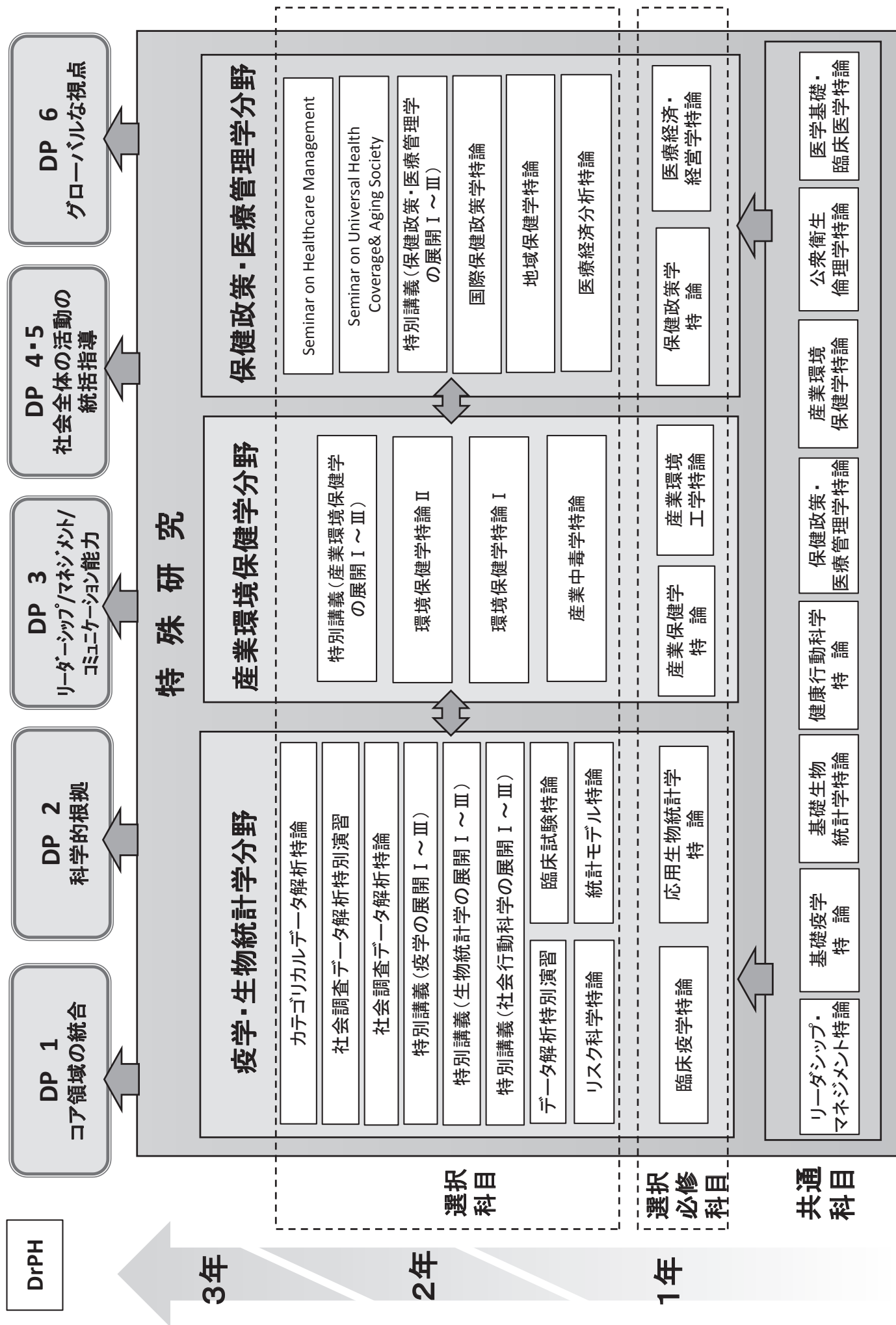
ディプロマポリシー(DP)

公衆衛生学研究科博士後期課程は、公衆衛生学研究科の目的に則り、変動発展する社会と科学技術に対応した新たな問題に対して科学的な分析を行い、その結果と解決策を科学的根拠に基づいて提示・実践し、評価できる能力の獲得を必須のものとする。加えて、そのような成果を達成するために求められるリーダーシップ、マネジメント能力、コミュニケーション能力等を併せ持つ上級管理職・上級指導者の養成を目指している。従って、本公衆衛生学研究科 公衆衛生学専攻の博士後期課程においては、そのような上級管理職・上級指導者という観点から以下のような能力を身につけ、かつ所定の単位を修め、学位論文審査および試験に合格した者に対して学位を授与する。

- DP1 公衆衛生の実際の場における問題解決のために公衆衛生の5つのコア領域(疫学、生物統計学、社会行動科学、保健政策・医療管理学、産業環境保健学)の総合的な能力を持ち、分野横断的な組織や活動を率いる能力がある。
- DP2 変動発展する社会と科学技術に対応した新たな問題に対して科学的な分析を行い、その解決策を科学的根拠に基づいて提示・実践し、評価することのできる能力がある。
- DP3 公衆衛生の実践において指導的立場の専門家に求められるリーダーシップ、マネジメント能力、コミュニケーション能力等のコンピテンシー(別記)を有している。
- DP4 人々の命を守り健康を増進させるために、そして健全な保健医療体制の持続的な発展と医療の質の継続的な向上に寄与するために、様々な公衆衛生上の課題に対して指導的立場で科学的判断に基づく問題解決を行い、その活動を統括指導する能力を有している。
- DP5 身体的・心理的・社会的に弱い状況におかれた人々の立場を理解したうえで、指導的立場から公衆衛生活動を実践する能力を有している。
- DP6 グローバルな視点をもって指導的立場から公衆衛生活動を実践する能力を有している。
- DP7 上記1から6を通じて、社会や組織、保健医療課題の変化に貢献しうる総合的な能力と資質を培っている。

科目区分	分野	授業科目の名称	単位数			配当 年次	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7
			必修	選必	選択								
共通科目		リーダーシップ・マネジメント特論	1			1	○	△	◎	◎	○	○	○
		基礎疫学特論		2		1	◎	◎	△	△	△	△	△
		基礎生物統計学特論		2		1	◎	◎	○	○	△	△	△
		健康行動科学特論		2		1	◎	○	○	○	△	△	△
		保健政策・医療管理学特論		1		1	◎	○	◎	◎	○	○	△
		産業環境保健学特論		1		1	◎	○	○	○	○	○	△
		公衆衛生倫理学特論		1		1	○	△	◎	○	○	○	△
		医学基礎・臨床医学特論		2		1	○	○	○	○	○	○	○
専門科目	疫学・生物統計学分野	臨床疫学特論		1		1	○	◎	△	△	△	△	△
		リスク科学特論			1	1	○	◎	○	◎	◎	○	△
		応用生物統計学特論		1		1	◎	◎	○	○	○	○	△
		統計モデル特論			1	1	○	◎	○	○	△	△	△
		データ解析特別演習			1	1	○	◎	○	○	△	△	△
		臨床試験特論			1	1	○	◎	○	○	△	△	△
		カテゴリカルデータ解析特論			1	1・2	○	◎	○	○	△	△	△
		社会調査データ解析特論			1	1・2	○	◎	○	○	△	△	△
		社会調査データ解析特別演習			1	1・2	○	◎	○	○	△	△	△
		特別講義(疫学の展開Ⅰ～Ⅲ)			1	1	◎	◎	○	○	△	◎	△
		特別講義(生物統計学の展開Ⅰ～Ⅲ)			1	1	◎	◎	○	○	△	◎	△
		特別講義(社会行動科学の展開Ⅰ～Ⅲ)			1	1	◎	○	○	○	◎	◎	△
		疫学・生物統計学特殊研究		12		1～3	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
	産業環境保健学分野	産業保健学特論		1		1	◎	○	○	○	○	○	△
		産業環境工学特論		1		1	◎	○	○	△	○	○	△
		産業中毒学特論			1	1	△	◎	△	△	△	△	△
		環境保健学特論Ⅰ			1	1	○	○	○	○	○	○	△
		環境保健学特論Ⅱ			1	1	○	○	○	○	○	○	△
		特別講義(産業環境保健学の展開Ⅰ～Ⅲ)			1	1	◎	○	○	○	△	◎	△
		産業環境保健学特殊研究		12		1～3	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
	保健政策・医療管理学分野	保健政策学特論		1		1	◎	○	◎	◎	○	○	△
		医療経済・経営学特論		1		1	◎	○	◎	○	○	○	△
		医療経済分析特論			1	1	○	◎	○	○	○	○	△
		地域保健学特論			1	1	○	○	◎	◎	○	○	△
		国際保健政策学特論			1	1	○	○	◎	◎	◎	◎	△
		Seminar on Healthcare Management			1	1・2	○	○	◎	◎	◎	◎	△
		Seminar on Universal Health Coverage & Aging Society			1	1・2	○	○	◎	◎	◎	◎	△
		特別講義(保健政策・医療管理学の展開Ⅰ～Ⅲ)			1	1	◎	○	○	○	△	◎	△
		保健政策・医療管理学特殊研究		12		1～3	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎

注) ◎関連大、○関連中、△関連小



(6) 教員一覧 (博士後期課程)

◆専任教員

氏名	役職	科目区分	授業科目
福田 吉治	教授 (研究科長)	共通科目	健康行動科学特論
			保健政策・医療管理学特論
			産業環境保健学特論
			公衆衛生倫理学特論
			医学基礎・臨床医学特論
		疫学・生物統計学分野	臨床疫学特論
			リスク科学特論
		産業環境保健学分野	産業保健学特論
			産業中毒学特論
			産業環境保健学特殊研究
		保健政策・医療管理学分野	保健政策学特論
石川ひろの	教授	共通科目	リーダーシップ・マネジメント特論
			健康行動科学特論
			公衆衛生倫理学特論
		疫学・生物統計学分野	疫学・生物統計学特殊研究
大脇 和宏	教授	共通科目	基礎疫学特論
			医学基礎・臨床医学特論
		疫学・生物統計学分野	臨床疫学特論
			疫学・生物統計学特殊研究
高橋 謙造	教授	共通科目	保健政策・医療管理学特論
			医学基礎・臨床医学特論
		疫学・生物統計学分野	臨床疫学特論
		保健政策・医療管理学分野	地域保健学特論
			国際保健政策学特論
			Seminar on Universal Health Coverage & Aging Society
中田 善規	教授	共通科目	リーダーシップ・マネジメント特論
			保健政策・医療管理学特論
			医学基礎・臨床医学特論
		保健政策・医療管理学分野	医療経済・経営学特論
			医療経済分析特論
			Seminar on Healthcare Management
			保健政策・医療管理学特殊研究
松浦 正明	教授	共通科目	基礎生物統計学特論
		疫学・生物統計学分野	応用生物統計学特論
			統計モデル特論
			データ解析特別演習
			疫学・生物統計学特殊研究
山岡 和枝	教授	共通科目	基礎疫学特論
			基礎生物統計学特論
		疫学・生物統計学分野	応用生物統計学特論
			統計モデル特論
			データ解析特別演習
			カテゴリカルデータ解析特論
			社会調査データ解析特論
			社会調査データ解析特別演習
山本 秀樹	教授	共通科目	疫学・生物統計学特殊研究
			保健政策・医療管理学特論
	教授	共通科目	医学基礎・臨床医学特論
			保健政策・医療管理学特論

氏名	役職	科目区分	授業科目
井上まり子	准教授	共通科目	保健政策・医療管理学特論
			公衆衛生倫理学特論
		保健政策・医療管理学分野	Seminar on Universal Health Coverage & Aging Society
			保健政策・医療管理学特殊研究
崎坂香屋子	准教授	共通科目	保健政策・医療管理学特論
		保健政策・医療管理学分野	保健政策・医療管理学特殊研究
桑原 恵介	講師	共通科目	基礎疫学特論
		疫学・生物統計学分野	臨床疫学特論
			疫学・生物統計学特殊研究
		産業環境保健学分野	産業保健学特論
津田 洋子	講師	共通科目	産業環境保健学特論
		疫学・生物統計学分野	リスク科学特論
		産業環境保健学分野	産業保健学特論
			産業環境工学特論
			産業中毒学特論
			環境保健学特論Ⅰ
			環境保健学特論Ⅱ
			産業環境保健学特殊研究
根本明日香	講師	共通科目	基礎生物統計学特論
		疫学・生物統計学分野	応用生物統計学特論
			統計モデル特論
			データ解析特別演習
			臨床試験特論
			疫学・生物統計学特殊研究
加藤 美生	助教	共通科目	リーダーシップ・マネジメント特論
		産業環境保健学分野	産業保健学特論
			産業環境保健学特殊研究
		保健政策・医療管理学分野	Seminar on Healthcare Management

◆他学部（兼担）

氏名	役職	科目区分	授業科目
内田 俊也	教授	共通科目	医学基礎・臨床医学特論
宮川 宗之	教授	産業環境保健学分野	産業中毒学特論
渡邊 清高	准教授	保健政策・医療管理学分野	医療経済・経営学特論
松田 彩子	助教	共通科目	基礎生物統計学特論
		疫学・生物統計学分野	データ解析特別演習
大嶽 浩司	客員教授	保健政策・医療管理学分野	医療経済・経営学特論

◆非常勤教員

氏名	役職	科目区分	授業科目
Murray Mittleman	客員教授	疫学・生物統計学分野	特別講義（疫学の展開Ⅰ～Ⅲ）
Garrett Fitzmaurice	客員教授	疫学・生物統計学分野	特別講義（生物統計学の展開Ⅰ～Ⅲ）
Ichiro Kawachi	客員教授	疫学・生物統計学分野	特別講義（社会行動科学の展開Ⅰ～Ⅲ）
Rose Goldman	客員教授	産業環境保健学分野	特別講義（産業環境保健学の展開Ⅰ～Ⅲ）
Alastair Gray	客員教授	保健政策・医療管理学分野	特別講義（保健政策・医療管理学の展開Ⅰ～Ⅲ）
井口 直樹	客員教授	共通科目	保健政策・医療管理学特論
小木 和孝	客員教授	産業環境保健学分野	産業保健学特論
丹後 俊郎	客員教授	共通科目	基礎生物統計学特論
		疫学・生物統計学分野	応用生物統計学特論
谷原 真一	客員教授	産業環境保健学分野	産業環境保健学特殊研究
中尾 睦宏	客員教授	共通科目	健康行動科学特論
野村 恭子	客員教授	疫学・生物統計学分野	特別講義（疫学の展開Ⅰ～Ⅲ）
			疫学・生物統計学特殊研究
原 邦夫	客員教授	産業環境保健学分野	産業環境保健学特殊研究
矢野 榮二	客員教授	共通科目	基礎疫学特論
		疫学・生物統計学分野	リスク科学特論
			疫学・生物統計学特殊研究
		産業環境保健学分野	産業環境保健学特殊研究
		保健政策・医療管理学分野	保健政策・医療管理学特殊研究
吉川 徹	客員准教授	産業環境保健学分野	産業保健学特論
奥原 剛	非常勤講師	共通科目	リーダーシップ・マネジメント特論
神山 宣彦	非常勤講師	産業環境保健学分野	環境保健学特論Ⅱ
小林 廉毅	非常勤講師	保健政策・医療管理学分野	医療経済・経営学特論
宋 裕姫	非常勤講師	産業環境保健学分野	産業保健学特論
瀧本 禎之	非常勤講師	共通科目	公衆衛生倫理学特論
田村 桂一	非常勤講師	保健政策・医療管理学分野	医療経済・経営学特論
坪倉 正治	非常勤講師	保健政策・医療管理学分野	地域保健学特論
中澤 栄輔	非常勤講師	共通科目	公衆衛生倫理学特論
中澤 達	非常勤講師	保健政策・医療管理学分野	医療経済・経営学特論
中原 浩彦	非常勤講師	産業環境保健学分野	産業保健学特論
			産業環境工学特論
			環境保健学特論Ⅰ
成松 宏人	非常勤講師	保健政策・医療管理学分野	医療経済・経営学特論
野田信一郎	非常勤講師	保健政策・医療管理学分野	地域保健学特論
橋本 晴男	非常勤講師	産業環境保健学分野	産業環境工学特論
橋本 英樹	非常勤講師	共通科目	保健政策・医療管理学特論
長谷川貴大	非常勤講師	疫学・生物統計学分野	臨床試験特論
町田 宗仁	非常勤講師	保健政策・医療管理学分野	Seminar on Universal Health Coverage & Aging Society
山本 真	非常勤講師	保健政策・医療管理学分野	地域保健学特論

(7) 履修の手引き

1. 履修の申込みと変更の届け出、学位申請等

(1) 履修の申込み

大学院生は毎年、年度始めに、研究指導教員のアドバイスを受けて、その年度内に履修を希望する科目を選び、所定の用紙（履修届）で受講を申し込むことが必要である。

(2) 履修科目の変更

履修科目を変更する場合（年度始めに受講申請した科目の受講を取り止める場合、および、新たな科目の履修を希望する場合）には、研究指導教員と相談して、所定の用紙（履修変更届）で届け出を行う必要がある。なお、年次途中に新たな科目の履修を希望する場合には、その科目の履修が可能かどうか、科目責任者に事前に問い合わせる（すでに定員を満たしている場合や、希望者がおらず講義が予定されていない場合等がありえる）。

(3) 学位申請

大学院生は第3学年の11月中旬頃までに、学位申請書類の提出が必要である。

ただし、優れた研究業績を上げた者については、1年間の在学で学位授与を申請することができる。

なお、具体的な学位申請の手続き内容やスケジュール、学位授与までの流れ等の詳細に関しては、第3学年の5月中旬に対象者に対して別途ガイダンスが行われる。

(4) 休学について

在学中に一身上の都合で、休学を希望する場合、研究指導教員に相談の上、所定の用紙にて届け出を行う。

※ 上記（1）～（4）の届け出・申請の提出先は事務部教務課（大学院担当）となる。

(5) 科目の聴講について

実習を除くすべての科目で単位履修を目的とせず聴講として講義を受けることができる。但し、科目責任者の許可を事前に求めること。

2. 授業科目の履修

(1) 履修の概略

①公衆衛生学に関する 専門職学位課程 または修士課程出身者	原則として、1年目に必修1科目と分野別の選択必修科目を履修し、1年後期からは学位論文作成のための研究活動に集中する。
②上記①以外の 医療系出身者 (※1)	原則として、1年目に共通科目の選択必修科目6科目(医学基礎・臨床医学特論を除く)と必修1科目、分野別の選択必修科目を履修し、2年目以降は学位論文作成のための研究活動に集中する。
③非医療系出身者 (※2)	原則として、1年目に共通科目の選択必修科目7科目と必修1科目、分野別の選択必修科目を履修し、2年目以降は学位論文作成のための研究活動に集中する。

(※1) 医療系出身者とは、医療系国家資格(医師、歯科医師、獣医師、薬剤師、看護師、保健師、助産師、臨床検査技師、診療放射線技師、理学療法士、作業療法士、管理栄養士、臨床工学士、等)の各免許を取得するための所定の課程を修了し、かつ修士(および専門職学位)課程を修了した者(6年制課程修了者はここでいう修士課程修了者に含まれる)。

(※2) 非医療系出身者とは、上記①②以外の修士(および専門職学位)課程修了者。

(2) 修了要件(=学位授与の要件)

- i) 共通科目として必修1科目(1単位)を取得する。なお、公衆衛生学に関する専門職学位課程または修士課程出身以外の者は、選択必修7科目11単位(ただし、医療系国家資格を有する者は、「医学基礎・臨床医学特論」2単位を除く)を取得すること。
- ii) 「疫学・生物統計学」、「産業環境保健学」、「保健政策・医療管理学」の3分野から1分野を選択し、専門科目として各分野の選択必修3科目(14単位)を取得する。また、履修科目の登録の上限は、年間20単位までである。ただし、成績優秀者には、年間20単位を超えた履修を認めることがある。
- iii) 選択科目4単位以上を取得すること。

上記の合計19単位以上を取得すれば卒業要件を満たすことになり、公衆衛生の実践において求められる職業意識と倫理、批判的分析、地域・文化交流、コミュニケーション、運営管理、リーダーシップ、アドボカシー、国際通用性のDrPHコアコンピテンシーを有しているとみなされ、その上で学位論文審査と学位申請者に対する最終試験に合格すれば学位授与の要件が満たされる。

◆ 共通科目

リーダーシップ・マネジメント特論	1 単位	必修
基礎疫学特論	2 単位	選択必修 (※1) (※2)
基礎生物統計学特論	2 単位	選択必修 (※1) (※2)
健康行動科学特論	2 単位	選択必修 (※1) (※2)
保健政策・医療管理学特論	1 単位	選択必修 (※1) (※2)
産業環境保健学特論	1 単位	選択必修 (※1) (※2)
公衆衛生倫理学特論	1 単位	選択必修 (※1) (※2)
医学基礎・臨床医学特論	2 単位	選択必修 (※2)

(※1) 公衆衛生学に関する専門職学位課程または修士課程出身以外の者で、医療系出身者は、共通科目の選択必修科目 6 科目（医学基礎・臨床医学特論を除く）の取得も求められる。

(※2) 教育的配慮の観点から非医療系出身者は、共通科目の選択必修科目 7 科目の取得も求められる。
なお、在学期間は 6 年を超えることはできない。

◆ 専門科目（疫学・生物統計学分野）

臨床疫学特論	1 単位	選択必修（分野指定）
応用生物統計学特論	1 単位	選択必修（分野指定）
疫学・生物統計学特殊研究	1 2 単位	選択必修（分野指定） (※3)

◆ 専門科目（産業保健・環境保健学分野）

産業保健学特論	1 単位	選択必修（分野指定）
産業環境工学特論	1 単位	選択必修（分野指定）
産業環境保健学特殊研究	1 2 単位	選択必修（分野指定） (※3)

◆ 専門科目（保健政策・医療管理学分野）

保健政策学特論	1 単位	選択必修（分野指定）
医療経済・経営学特論	1 単位	選択必修（分野指定）
保健政策・医療管理学特殊研究	1 2 単位	選択必修（分野指定） (※3)

(※3) 各分野の特殊研究は各年次で毎年の履修登録を行い、修了年度に 1 2 単位が認定される。
(4 単位相当／年)

3. 成績評価および GPA 制度

授業科目の成績評価については、試験・レポート等（筆記試験・口述試験・実技試験・レポート・発表内容）を中心として評価するが、科目によっては講義への参加（出席・討論への参加）等の学習状況等を加味して評価する。なお、再試験・レポート再提出の場合は減点の対象とする。学外の実習に参加した場合については、実習先の外部評価も成績評価に反映させる。

成績評価制度として、GPA（Grade Point Average）制度を導入している。この制度の導入の趣旨は、1.キャンパスとして統一した基準を作成すること、2.公平性に優れた基準であること、3.国際的に通用する基準であることとし、学生諸君の学修の成果を、GPA という客観的な数値で評価するものである。

また、この制度は、欧米の大学で採用している成績評価制度に概ね準拠しており、海外留学、海外の大学院進学、外資系企業への就職等に際し、学力を証明する指標として、海外でも通用する成績評価制度となっています。

（１）成績等の表示および成績評価基準

区分	評価	GPA	成績評価基準	評価内容	（英文内容）
合格	S	4.0	100～90 点	特に優れた成績を表す	（Excellent）
	A	3.0	89～80 点	優れた成績を表す	（Good）
	B	2.0	79～70 点	妥当と認められる成績を表す	（Satisfactory）
	C	1.0	69～60 点	合格と認められる最低限の成績を表す	（Pass）
不合格	D	0.0	59 点以下	合格と認められる最低限の成績に達していないことを表す	（Failure）
対象外	N	—	—	他大学等で修得した科目を本学の単位として認定したことを表す （既修得単位認定）	（Credits Transferred）

（２）GPA の算出方法

$$\frac{4.0 \times S \text{ の修得単位数} + 3.0 \times A \text{ の修得単位数} + 2.0 \times B \text{ の修得単位数} + 1.0 \times C \text{ の修得単位数}}{\text{修了要件単位数における総履修登録単位数（D の単位数を含む）}}$$

GPA スコアは 2.5 以上を確保することが望ましく、1.0 以下の者には退学勧告をする場合があります。

（３）成績評価に対する質問・異議申出

1. 成績評価に対して質問がある場合は当該科目の担当教員（科目責任者）に質問をする。
2. 成績評価に対して異議がある場合は内容および理由をできる限り詳細に記入し（様式任意）事務部教務課大学院担当まで提出する。
3. 成績評価に対しての質問・異議申出は成績発表後の 2 週間以内まで受付ける。期間外またはやむを得ない事由で成績通知書を受領しなかった場合も、期間の延長は認めない。

4. 海外提携大学との交流及び留学支援

(1) 成績優秀者に対する留学推薦

成績優秀者に対しては本人が留学を希望する場合、一定の選考基準に基づきハーバード大学公衆衛生大学院等に推薦し、そこでの勉学・研究・学位取得を援助するシステムを準備している。以下の要件をおおよその基準として、研究指導教員等との協議を経て研究科長による推薦を行う。

2019年度 公衆衛生学研究科 履修届

博士後期課程

学籍番号

提出日 2019 年 4 月 日

学生氏名

㊞

研究指導教員

職位

氏名

㊞

科目区分	分野	Code	numober	科目名	単位数			登録	登録単位	特記事項
					必修	選択	選択			
共通科目		HPM	214	リーダーシップ・マネジメント特論	1				0	
		EPI	201	基礎疫学特論		2			0	
		BIO	201	基礎生物統計学特論		2			0	
		HBS	201	健康行動科学特論		2			0	
		HPM	201	保健政策・医療管理学特論		1			0	
		OEH	211	産業環境保健学特論		1			0	I～IIIいずれかを開講
		ID	201	公衆衛生倫理学特論		1			0	
		ID	101	医学基礎・臨床医学特論		2			0	
専門科目	疫学・生物統計学分野	EPI	221	臨床疫学特論		1			0	
		EPI	251	リスク科学特論			1		0	
		BIO	211	応用生物統計学特論		1			0	
		BIO	601	統計モデル特論			1		0	
		BIO	301	データ解析特別演習			1		0	I～IIIいずれかを開講
		BIO	612	臨床試験特論			1		0	
		BIO	611	カテゴリカルデータ解析特論			1		0	
		BIO	241	社会調査データ解析特論			1		0	
		BIO	321	社会調査データ解析特別演習			1		0	
		EPI	401～403	特別講義(疫学の展開 I～III)			1		0	I～IIIいずれかを開講
		BIO	401～403	特別講義(生物統計学の展開 I～III)			1		0	
		HBS	401～403	特別講義(社会行動科学の展開 I～III)			1		0	
		BIO	510	疫学・生物統計学特殊研究		12			0	
	産業環境保健学分野	OEH	231	産業保健学特論		1			0	
		OEH	232	産業環境工学特論		1			0	
		OEH	251	産業中毒学特論			1		0	
		OEH	212	環境保健学特論 I			1		0	
		OEH	213	環境保健学特論 II			1		0	
		OEH	401～403	特別講義(産業環境保健学の展開 I～III)			1		0	
		OEH	510	産業環境保健学特殊研究		12			0	
	保健政策・医療管理学分野	HPM	201	保健政策学特論		1			0	
		HPM	211	医療経済・経営学特論		1			0	
		HPM	601	医療経済分析特論			1		0	
		HPM	603	地域保健学特論			1		0	
		HPM	401	国際保健政策学特論			1		0	
		HPM	411	Seminar on Healthcare Management			1		0	
		HPM	421	Seminar on Universal Health Coverage & Aging Society			1		0	I～IIIいずれかを開講
		HPM	401～403	特別講義(保健政策・医療管理学の展開 I～III)			1		0	
		HPM	510	保健政策・医療管理学特殊研究		12			0	

※提出は4月19日(金)まで【提出ボックスNo.39】

総単位数

0

研究科長	教務部長

履修科目変更届(願)

20 年 月 日

公衆衛生学研究科長 殿

学籍番号 _____

学生氏名 _____ (印)

研究指導教員

職 位 _____

氏 名 _____ (印)

下記のとおり履修科目の変更を申請いたします。

	科目区分	科目名称	単位数	変更後(該当に○印)
1				履修 ・ 取り消し
2				履修 ・ 取り消し
3				履修 ・ 取り消し
4				履修 ・ 取り消し
5				履修 ・ 取り消し
6				履修 ・ 取り消し
7				履修 ・ 取り消し
8				履修 ・ 取り消し

事務部記入欄

受付日:

処理日:

--	--

公衆衛生学研究科 公衆衛生学専攻 博士後期課程

(8) 学位授与

本博士後期課程の教育目的に沿って、現実の保健医療問題の改善・解決や人々の健康水準の向上を図るという公衆衛生課題に対する具体的な成果を達成し、また、それを達成するための能力（コンピテンシー）を有すると認められた者に「博士（公衆衛生学）」の学位を授与する。

学位を申請できる者は、第3学年に在学し所要の単位を修得（見込みを含む）している者とする。ただし、優れた研究業績をあげた者については、在学年限に関わらず学位を申請することができる。また、満期退学した後に学位申請する場合は、満期退学後3年以内であれば随時学位を申請することができる。

学位審査は、審査委員会により学位論文の審査と最終試験により実施される。

本博士後期課程において学位論文とは、公衆衛生課題の対策に向けた計画（以下、「プロジェクト」という）の策定ならびにこれについての調査・研究、さらに可能な場合は部分的な対策実施を行い、これら全ての活動の結果をまとめた成果報告書をいう。審査のため必要があるときは、学位論文の一部としてプロジェクトの成果に関連する参考論文、さらに学位論文とは別に参考資料の提出も求められる。

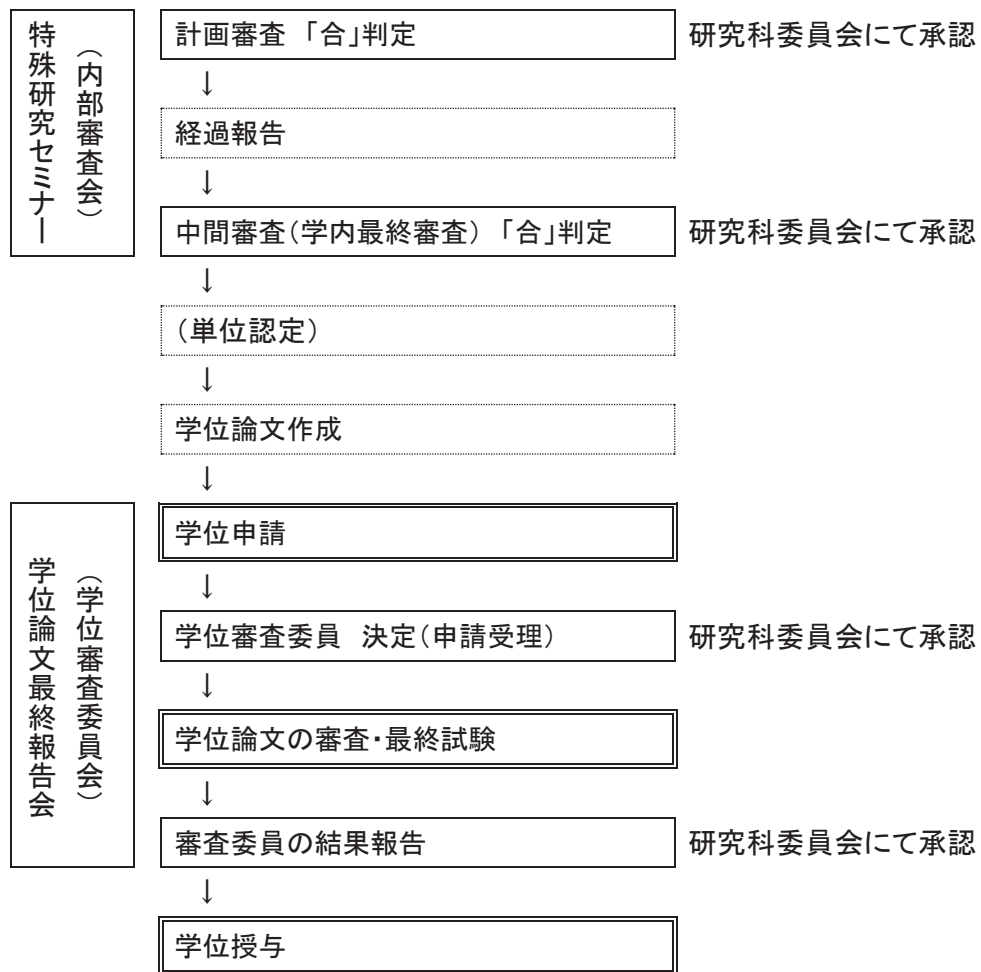
学位論文の審査は、学位申請者がその専攻分野において、プロジェクトと具体的な成果をまとめた成果報告書が、学位申請者自らの計画と調査・研究、対策実施に基づいたものであることを確認するとともに、本学が博士（公衆衛生学）の学位を授与するにふさわしい、成果の達成状況や、それを達成するための能力（コンピテンシー）を有することを確認するものである。最終試験は、学位論文を中心とし、審査委員全員により原則として口答（必要に応じて筆答）にて行い、その判定結果は可または否のいずれかとなる。

なお、特殊研究の単位は、内部審査会による計画審査および中間審査（学内最終審査）に合格することで認められる。これらの審査は、特殊研究セミナーとして公開で行われる。加えて、プロジェクトの進捗状況と学習到達度を確認するため、経過報告を特殊研究セミナーとして実施する。原則として、少なくとも年に1回、計画審査での報告、中間審査（学内最終審査）での報告または経過報告を行うものとする。

詳細については、巻末の学位運用規程を参照のこと。

なお、学位申請の手続きや提出書類、論文作成のための指導方法とその過程、評価内容、および公表方法等については、学期中の適切な時期に院生向けに別途ガイダンスを実施する。

学位申請の流れ



(9) その他留意事項

1. 事故等について

実習においては指導教員または実習先の担当者の指導のもと、十分留意の上で行う。

①. 万が一、事故等が生じた場合

- ・通学中や、実習先への移動中に転倒してケガをした場合等
- ・炎天下での実習中に熱中症となり入院した場合等

A 次のいずれかまで連絡する。

- ・帝京大学 公衆衛生学研究科 受付 TEL 03-3964-2108
- ・帝京大学板橋キャンパス 事務部教務課大学院担当 TEL 03-3964-3294 (直通)

B 事故の報告書の提出(様式任意)が必要である。

②. 入学時に加入している保険について

- ・「学研災」・・・学生教育研究災害傷害保険
- ・「学研賠」・・・学研災付帯賠償責任保険
- ・「こども保険」・・・こども総合保険(感染予防等)

③. 海外への実習の場合

治療費等は立替払いである。保険請求の際は必ず領収書・診断書等を提出する。英文の場合は日本語訳が必要となる。あくまでの実習中の事故等が対象である。

通常の海外旅行保険への申し込みを勧める。

取扱代理店：株式会社 帝京サービス 保険部

帝京大学 大学棟 3 号館 2 階 Tel 03-5943-1988

2. 交通機関の不通と警報による休講

交通機関が事故等で不通になった場合、または台風、大雪等でキャンパスの在る地域に、暴風警報（大雨、洪水警報のみは除く）、大雪警報が発令された場合は、以下の通り休講とする。授業、実習が開始されてから発令された場合は、大学、実習先の指示に従う。

①. 埼京線、山手線、京浜東北線のすべてが不通となった場合

暴風警報または大雪警報が、**東京 23 区**に発令された場合

運転再開の時刻、警報の解除時刻	授業、実習の取扱い
午前 6 時 00 分まで	平常どおり
午前 6 時 00 分から午前 10 時 00 分まで	3 時限目より授業を行う
午前 10 時 00 分以降	1 日休講

②. 上記以外の交通機関の不通、警報が発令されている地域があっても、休講とはしない。登校不可能な状態の場合は必ず大学あるいは実習先に連絡し、指示を受ける。

3. 学費納入について

1. 所定の学費は、前期・後期の二期に分け、前期は 5 月末日まで、後期は 10 月末日まで、それぞれ定められた期限内に納入する。詳細は、大学から送付される振込用紙と案内を参照する。
2. 期限内に納入することが困難な場合は、納入期限までに所定の学納金延納願を事務部教務課大学院担当に提出し、許可を得る。
3. 留年した場合、及び復学した場合の学納金については、新たに定められた金額を納入する。
4. 在学中に授業料、その他納付金に変更があった場合には、新たに定められた金額を納入する。
5. 休学中及び停学中であっても学費は全額納入しなければならない。ただし、4 月末日までに休学願を提出した者は当該年度の前期分・後期分を、10 月末日までに休学願を提出した者は当該年度の後期分を各々半額とする。
6. 既納の学費は如何なる理由があっても返還しない。

4. オフィスアワー

本学には、オフィスアワー制度が設けられている。オフィスアワーとは、教員が学生の皆さんの授業履修、学業成績あるいは学生生活についての相談を受けながら、コミュニケーションを深め、アドバイスすることによって、より良い大学生活を送ってもらうために設けられた、授業以外の時間のことをいう。相談時間については、別途掲示などで周知するが、該当する時間であっても、出張や会議等の理由から教員が不在となる場合がある。

5. 事務取扱時間

平 日： 8：45 ～ 16：45

土曜日： 8：45 ～ 12：00

※祝日、創立記念日、年末年始（12/29～1/3）、

入学試験、オープンキャンパス等の学校行事を除く

大学院公衆衛生学研究科 博士後期課程 時間割表

2019年度

日付	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30		
曜日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火		
4月			オリエンテーション												医学基礎	産環特論	基礎生物					医学基礎	産環特論	基礎生物		医学基礎						
															医学基礎		基礎生物					医学基礎		基礎生物		医学基礎						
												基礎疫学					健康管理	健康行動	基礎疫学				政策管理	健康行動	基礎疫学							
												基礎疫学					統計モデル	公衛倫理	基礎疫学				統計モデル	公衛倫理	基礎疫学							
																	調査特論							調査特論								
日付	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	
曜日	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	
5月							産環特論	基礎生物	学位論文G					医学基礎	産環特論	基礎生物				医学基礎	産環特論	基礎生物					医学基礎	産環特論	基礎生物			
								基礎生物						医学基礎		基礎生物				医学基礎		基礎生物					医学基礎		基礎生物			
							政策管理	健康行動		基礎疫学					政策管理	健康行動	基礎疫学				政策管理	健康行動	基礎疫学					政策管理	健康行動	基礎疫学		
							統計モデル	公衛倫理		基礎疫学					統計モデル	公衛倫理	基礎疫学				統計モデル	公衛倫理	基礎疫学					統計モデル	公衛倫理	基礎疫学		
							調査特論								調査特論						調査特論							調査特論				
日付	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30		
曜日	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日		
6月			医学基礎	産環特論	基礎生物					医学基礎	産環特論	基礎生物					医学基礎	地域保健	基礎生物					医学基礎	地域保健	基礎生物				創立記念日		
			医学基礎		基礎生物					医学基礎		基礎生物					医学基礎	地域保健	基礎生物					医学基礎	地域保健	基礎生物						
				政策管理	健康行動	基礎疫学					政策管理	健康行動	基礎疫学					保健政策	健康行動	基礎疫学				経済経営		健康行動	基礎疫学					
				統計モデル	公衛倫理	基礎疫学					統計モデル	公衛倫理	基礎疫学					保健政策	健康行動	基礎疫学				経済経営		健康行動	基礎疫学					
				調査特論							調査特論									基礎疫学				経済経営								
日付	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	
曜日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	
7月	医学基礎	地域保健	基礎生物					医学基礎	地域保健	基礎生物		医学基礎					基礎生物		Heal. Mana.	Heal. Mana.	Heal. Mana.	Heal. Mana.	Uni. Heal.	Uni. Heal.	Uni. Heal.	Uni. Heal.	Uni. Heal.		医学基礎		基礎生物	
	医学基礎	地域保健	基礎生物					医学基礎	地域保健	基礎生物		医学基礎					基礎生物		Heal. Mana.	Heal. Mana.	Heal. Mana.	Heal. Mana.	Uni. Heal.	Uni. Heal.	Uni. Heal.	Uni. Heal.	Uni. Heal.		医学基礎		基礎生物	
	経済経営	保健政策	健康行動	基礎疫学				経済経営		健康行動	基礎疫学					保健政策	健康行動	基礎疫学				Uni. Heal.	Uni. Heal.					経済経営	保健政策	健康行動		
	経済経営	保健政策		基礎疫学				経済経営			基礎疫学					保健政策		基礎疫学				Uni. Heal.						経済経営		保健政策		
	経済経営							経済経営										基礎疫学				Uni. Heal.						経済経営				
		国際政策							国際政策							国際政策													国際政策			
日付	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	
曜日	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	
8月					医学基礎	基礎生物																										
					医学基礎	基礎生物																										
					経済経営	健康行動	基礎疫学																									
					経済経営		基礎疫学																									
					経済経営																											
日付	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30		
曜日	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月		
9月				産環工学			産環工学									応用生物	リーダーラボ	産業保健					応用生物	環境保健Ⅰ		産業保健				産業保健		
				産環工学			産環工学									データ解析		産業保健					データ解析	環境保健Ⅰ		産業保健				産業保健		
				産環工学			産環工学									臨床試験		臨床疫学					臨床試験		臨床疫学					臨床疫学		
				産環工学			産環工学											臨床疫学							臨床疫学					臨床疫学		
																															経済経営	

大学院公衆衛生学研究科 博士後期課程 時間割表

2019年度

日付	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31
曜日	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木
10月	応用生物 データ解析 臨床試験	リーダー マネ					産業保健 産業保健 経済経営 経済経営 経済経営	応用生物 データ解析 臨床試験	環境保健Ⅰ 環境保健Ⅰ		産業保健 産業保健 経済経営 経済経営				応用生物 データ解析 臨床試験	リーダー マネ		応用生物 データ解析			産業保健 産業保健 経済経営 経済経営 経済経営	環境保健Ⅰ 環境保健Ⅰ					産業保健 産業保健 経済経営 経済経営	応用生物 データ解析 臨床試験	リーダー マネ		
11月	産業保健				応用生物 データ解析 臨床試験	環境保健Ⅰ 環境保健Ⅰ						応用生物 データ解析 臨床試験	リーダー マネ	リスク科学 リスク科学					応用生物 データ解析 臨床試験	環境保健Ⅱ 環境保健Ⅱ	リスク科学 リスク科学				リスク科学 データ解析						
12月			応用生物 データ解析 臨床試験	環境保健Ⅱ 環境保健Ⅱ							応用生物 データ解析 臨床試験	リーダー マネ			リスク科学 データ解析 臨床試験	環境保健Ⅱ 環境保健Ⅱ					応用生物 データ解析 臨床試験	環境保健Ⅱ 環境保健Ⅱ				応用生物 データ解析 臨床試験	環境保健Ⅱ 環境保健Ⅱ				
1月																															
2月																															
3月																															

DrPH